

FLORA KANAGAWA

July. 7. 2010 No.70

神奈川県植物誌調査会ニュース第70号

〒250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内
神奈川県植物誌調査会
TEL 0465-21-1515 ・ FAX 0465-23-8846
<http://nh.kanagawa-museum.jp/~kana-syoku/>
e-mail kana-syoku@nh.kanagawa-museum.jp



ホンゴウソウ 左：2009年7月12日 矢印の先が雄花；右：2009年8月6日（横浜市青葉区 増永貴美子氏 撮影）。本文 853 頁参照。

目次

田中伸幸：横浜市内でのナヨテンマの記録.....	852
高橋多枝子：横浜市青葉区のウメガサソウ.....	852
田中徳久：横浜にホンゴウソウが出現.....	853
秋山幸也：相模原市内でレイヨウボタンを確認.....	853
秋山幸也：横浜市瀬谷区でオオアザミの逸出を確認.....	854
城川四郎：浜口哲一さんのご逝去を悼む.....	854
佐藤恭子：浜口哲一先生と花ごよみ.....	855
事務局：2010年度総会の報告.....	856
事務局：「次の植物誌に向けて」打ち合わせ会報告.....	858
事務局より.....	858
編集後記.....	858

横浜市内でのナヨテンマの記録

(田中伸幸)

2009年7月、横浜市戸塚区に在住の金子順子氏より植物の写真が同封されたお手紙が送られてきて、写真に写っている植物のお問い合わせをいただいた。写真から同定したところ、それはラン科オノノヤガラ属のナヨテンマ *Gastrodia gracilis* Blume であった。『神奈川県植物誌 2001』では、北丹沢長者舎のみで記録があるが、証拠標本がないとされている。

ナヨテンマは、常緑広葉樹林の林床に生育する腐生ランで、日本の千葉県以西、静岡県、四国、九州、台湾などに分布するとされているが、環境省の絶滅危惧植物 IA 類 (CR) に選定されている希少な植物である。この植物は、Textor が日本からオランダに送った標本に基づいて 1856 年に分類学者 Blume によって記載された。Blume 以降、牧野富太郎博士のコレクションの中にこの種があることを発見し、研究したのは津山尚博士である (津山, 1952)。非常に希少な植物で、Blume の発表以来 100 年あまりの間、実際の植物は発見されなかったことでもその希少さが知られている。杉野孝雄氏が静岡県掛川市で生育しているナヨテンマを発見したのは 1965 年である (Tuyama & Sugino, 1966)。

金子氏は、1992 年 (平成 4 年) 6 月に横浜市戸塚区柏尾町の山林でナヨテンマを発見し、撮影された (写真)。これは何という植物なのか、疑問に思われつつも、そのまま 15 年の歳月が経過したという。当時の柏尾町にはまだ山が多かったが、その後、宅地開発がされ、ほとんどが住宅地となっており、林は少ししか残っていない。祖父母が横浜市に居を構えていたため、私も横浜や戸塚には馴染みが深く、そういえば、小さい頃は戸塚の辺りは山が多く、自然が豊かなところだったとナヨテンマの写真を見ながら思い起こした。ナヨテンマは、神奈川県からは記録だけで、それを証明する標本は 1 点もなかった。今回の横浜市戸塚区柏尾町で撮影されたナヨテンマの写真は、貴重な記録の一資料となるに違いない。ちなみに私が勤めている植物園がある高知県でも、文献に記録があるだけで、証拠になる標本はやはり 1 点もない。

柏尾町の王子神社周辺、上柏尾町の御嶽神社周辺にはまだ林が残っているが、ここまで住宅



山林の林床に自生するナヨテンマ (横浜市戸塚区柏尾町 1992 年 5 月 金子順子氏 撮影)。

地化が進んでしまった現在では、すでにここからはナヨテンマは姿を消している可能性が極めて高い。しかし、15 年前までナヨテンマが自生していた柏尾町付近を、その花の時期である 6 月あたりに今年はずこし散策してみたいと思っている。

引用文献

- 神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1580pp. 神奈川県生命の星・地球博物館, 小田原.
- 津山尚, 1952. 日本産オノノヤガラ属雑記 (I) *Gastrodia gracilis* Bl. の再発見に就いて. 植物研究雑誌, 27: 19-26.
- Tsuyama, T. & T. Sugino, 1965. Notes on *Gastrodia* of Japan (3). 4) *Gastrodia gracilis* Bl. の生植物の発見について. 植物研究雑誌, 41: 339-346.

横浜市青葉区のウメガサソウ

(高橋多枝子)

2010 年 5 月 9 日、東京都町田市成瀬と横浜市青葉区奈良町の都県境にある成瀬尾根町田側で、まだ蕾のウメガサソウ *Chimaphila japonica* Miq. (イチヤクソウ科) を 4 株確認した。当日同行していた町田市成瀬台在住の夏原幸男氏が、6 月 4 日に開花写真を撮影するため訪れたところ、横浜側にも数株あることに気付く、連絡をいただいた。6 月 22 日、尾根の横浜側を夏原氏と調査したところ点々と 8 株を確認したので、うち 1 株を採集した。ウメガサソウは『横浜植物誌』(出口, 1968) で数区に散生とあるが、その後確認されず、『横浜の植物』(横浜植物会編, 2003) では絶滅種 (EX-A) とされていた。

奈良町は 1980 ~ 90 年代に 82ha の開発が行われたが、それ以前はキキョウ、カワラナデシコ、

タムラソウなどが自生する植物相豊かなところであった。公団の開発では県境の斜面地は地形に沿って緩衝緑地とされ、その後行われた成瀬側の開発でも10～20m幅の緑地が尾根道沿いに残され、町田市所有となっている。

1953年には出口長男氏が同じ奈良町でウメガサソウを採集しているが（青葉区奈良町1953.7.27 KPM-NA0079803）、その場所が開発地に含まれていたのか、今回の確認地付近であるかは不明である。近くにはサガミラン、キンラン、ギンラン、ササバギンラン、イチヤクソウなども多く見られ、横浜市と町田市の境に帯状にわずかに残された緑地の貴重さを再確認した。

標本：横浜市青葉区奈良町 夏原幸男・高橋多枝子 2010.6.22 KPM-NA0164129.

引用文献

出口長男, 1968. 横浜植物誌. 256pp. 秀英出版, 東京.
横浜植物会編, 2003. 横浜の植物. 32pls.+1325pp. 横浜植物会, 横浜.



ウメガサソウ（横浜市青葉区奈良町
2010年6月7日 夏原幸男氏撮影）。

横浜にホンゴウソウが出現

(田中徳久)

2009年7月7日、生命の星・地球博物館に、増永貴美子さんから、「ホンゴウソウについて」と題し、「今年6月27日に寺家ふるさと村でホンゴウソウを見つけました。2～3日毎に成長の観察をしています。」とのメールが届いた。ホンゴウソウ *Sciaphila japonica* は、『神植誌01』に1993年の横須賀の記録があり、当時その産地ではすでに失われたとされ、写真のみが残されている植

物である。その後、7月11日には塚越 勇さんから「ホンゴウソウが見つかりました」とのメールが直接送信されてきた。増永さん、塚越さんとメールでやりとりをした結果、どうも同じ場所のようであった。増永さんによると、発見地は生垣の剪定などにより環境が変化し、その存続が心配されているようであるが、その存続を期待したい。

標本：横浜市青葉区 増永貴美子 2009.9.21
KPM-NA0164130.

相模原市内でルイヨウボタンを確認 (秋山幸也)

ルイヨウボタン *Caulophyllum robustum* Maxim. は神奈川県レッドデータブック（勝山ほか, 2006）において絶滅と判定されたが、2006年に相模原市鳥屋で再確認された（諏訪, 2008）。今回、同市内丹沢山地の別の場所でも確認したので報告する。

2010年5月19日、相模原植物調査会の定例の野外調査において、丹沢主脈のとあるコースを歩いた。以前からハシリドコロが見られることで注目していた場所に差し掛かり、同行の菅沼広美さん、藤井良造さん、三樹和博さん、宮崎精励さんとハシリドコロの群落に近づこうとした。すると、菅沼さんから「ルイヨウボタン！」の声。テンニンソウにまぎれてあやうく踏みつけそうな場所に、その1株は咲いていた。

それほど多くの花を期待していなかったコースでもあったので、大物の出現に一同歓喜の声を上げた。よくよく見ると、急斜面に浅く削られた沢状の筋の狭い範囲に16株を確認し、開花は1株だけであった。周囲にはギンバイソウやヤマシャクヤクもひっそりと残っており、共に抜かれず、食べられずに生き延びよと祈らずにいられた。

標本：相模原市緑区（標高約850m）秋山幸也 2010.5.19 SCM43641.

引用文献

勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会編, 2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp.37-130. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原. 諏訪哲夫, 2008. 県央付近の新記録種について. *Flora Kanagawa*, (66):814-815.

横浜市瀬谷区でオオアザミの逸出を確認 (秋山幸也)

近年、幹線道路沿いを中心にアメリカオニアザミ *Cirsium vulgare* (Savi) Tenore が目立って増えている。触るのも嫌で除去できないという事情はあるにせよ、その堂々たる咲きっぷりを目にする、この仲間の分かりやす過ぎる形態の進化に、何やら潔さを感じてしまう。

ところが、久しぶりに現れた松本雅人氏から、こちらのヤワな好感など吹き飛ばす凶悪な顔のアザミが持ち込まれた。オオアザミ *Silybum marianum* (L.) Gaertn. である。アメリカオニアザミにしるゴロツキアザミ *Onopordum acanthium* L. にしろ、外来の大型アザミたちは全草見れば文字通りトゲトゲしいものの、総苞より上を見れば



オオアザミ (横浜市瀬谷区上瀬谷 2010年5月18日 秋山幸也 撮影)。

自生種と同類のなじみ深い顔付きをしている。しかし、オオアザミは総苞に 4cm はあろうかという頑丈なトゲが何本も生えている。思わず拷問具を連想してしまった。

とにかく、こんなものが生えている現場を見たいと思いつけると、農地と住宅地の間の真新しい道路脇に遠目にも分かる大株があった。ご丁寧に、すぐ隣にはまだ花柄の出していないアメリカオニアザミも数株あったが、それが霞んで見えるほどの威容である。太刀掛・中村 (2007) によれば、江戸時代に園芸植物として渡来した記録があり、西日本では比較的広く記録がある。また、薬用植物としての利用の歴史も古いようである。

よく見れば、大きな葉には葉脈に沿って白斑があり、これがなかなか美しい。学名の種小名も、これを聖母マリアに捧げようとしてこぼれたミルクに例えたとされる神秘的な由来であった (清水, 2003)。それにしても、採集しようとしてどこに触っても鋭利なトゲが必ず突き刺さった。これを除草しようとするには余程の覚悟がいるだろう。アメリカオニアザミに引き続いて広がる予感を抱きながら帰途についた。

標本：横浜市瀬谷区上瀬谷 秋山幸也 2010.5.18
SCM43645.

引用文献

清水建美, 2003. 日本の帰化植物. 160pls.+337pp. 平凡社, 東京.

太刀掛優・中村慎吾, 2007. 改訂増補帰化植物便覧. 676pp. 比婆科学教育振興会, 広島.

浜口哲一さんのご逝去を悼む

(城川四郎)

浜口哲一さんが5月3日に逝去されたとの悲報に接し、大きな衝撃を受けました。4月14日にご本人から体調不良のメールを受けてまだ半月を過ぎたばかりでした。62歳での冥界旅立ちにはあまりにも早過ぎ、惜しまれてなりません。浜口さんは鳥類、昆虫類を主軸として自然系のいろいろな分野で大きな業績を挙げられた方であり、自然保護問題、自然観察の手法、地域自然環境の考察などについて、全国レベルの第一人者的存在でした。私たち神奈川県植物誌調査会にとってもかけがえのない貴重な人材でありました。本会の発足当初から、会の活動への寄与は並々ならぬものがあり、深い感謝をこめて、

心から哀悼の意を捧げて止みません。

浜口さんは優れた資質を発揮して、とうてい常人には為し得ない多角的、かつ深みのある沢山の業績を挙げられましたので、植物の分野はその一角に過ぎなかったとは言え、その取り組みは真に意欲的であり、画期的でありました。会の運営についての彼の発言は常に新しい視点を持ち、実践可能な前向きな提言でありましたし、研究者としても植物の分布、分類学的考察を怠ることがありませんでした。浜口さんは植物誌調査会発足当初から植物分類に堪能であったわけではなく、Flora Kanagawa No.16 (1984年)に「平塚標本でタチタネツケバナをジャンジンと誤認していた」などとも書かかれています。しかし、地域の植物相調査の進行とともに、県植物誌の発行に

先んじて『湘南植物誌』をまとめるほどの活躍をされ、その間の植物分類研究と精力的な実践活動は瞠目すべきものがありました。植物を見る目はいつも成果を競う鋭い目つきではなく、周辺野外でのつい見落としそうな事象に「アレツ」と気がついたような目つきであったように思います。「みんなでよく見ようよ」という雰囲気をかもし出す目なのです。近年、連続して Flora Kanagawa へ投稿して下さっているその内容を見ても、No.66 のアレチニシキソウ、ツタの葉柄、No.67 のイワヒメワラビ、No.68 のマツバウンランの越冬葉、最新号 No.69 のセイヨウイボタの花と、その内容はフィールドで絶えず非凡な観察眼を駆使されていたことがよくわかります。Flora Kanagawa No.69 では守矢先生への懇ろな追悼文を書いて下さっているのも私たちの悲しみを増幅させます。守矢先生が亡くなられてから浜口さんの昇天まで半年も経っていないのです。

浜口さんは明晰な頭脳に絶えず磨きをかけている方でした。毎月初めに送って下さる読書感想メールにはただただ敬服申し上げるのみでしたが、研究、調査、著述の多忙の中で、多読し、消化するその読書力は並外れたもので、常人には到底為し得ぬ営為でありました。浜口さんはまた人徳の方でもあって、彼を慕い、彼の許に通って薫陶を受けた多くの若い人材が、今や優れたナチュラリストとして、それぞれの分野の第一線で活躍しています。その方たちの主催で浜口さんが平塚市博物館館長を定年退職された 2008 年 4 月 5 日に「浜口哲一さんを囲む会」が企画され、盛大に催されました。即ち浜口さん昇天 2 年前のことです。すでに肺がんに侵されていることを承知していた浜口さんは、このときすでに余命についても期するところがあったに違いないと思います。それでも探求心は衰えることなく、研究、観察、読書が続けられ、直接、間接に多くの知見を私たちに提示されました。改めて浜口さんの在りし日を偲び、浜口さんの永久の旅路が安らかなものであるようお祈り申し上げて、お別れします。浜口さん、さようなら。

浜口哲一先生と花ごよみ

(佐藤恭子)

2010 年 5 月 3 日、浜口哲一先生が永眠されま

した。「困ったときは浜口先生がきっと答えてくださる」と頼りにし、それがずっと続くものと信じ込んでいました。もう二度とお答えくださることはない、その事実を前にただ呆然とするばかりです。

浜口先生の残された多くの業績の中でも、調査会と大きな関わりのある「花ごよみ」についての記憶を辿ってみようと思います。

平塚市博物館では毎月 1 ～ 2 回、「土曜観察会」が開催されていましたが、先生は開館当初から市民を巻き込んでの調査を目指していらっしゃったようで、1981 年から 83 年にかけてのテーマは、高麗山・浅間山を歩きながらグループで開花状況を観察していく「花ごよみ調査」でした。「スマレ（咲き始め）、ホトケノザ（畑に群生・咲き終わり）のようにプラスアルファの情報を記録していったほうが、後で思い出しやすいし、情報としても役に立ちますよ」温厚なお人柄とソフトな語り口に老若男女が惹きつけられ、調査がすすめられました。その成果は参加者手書きの冊子にまとめられ、さらにはガイドブックにも掲載されています（平塚市博物館、1984）。

私事で恐縮ですが、植物の和名のうしろに「つぼみ△ 満開◎」などの開花マークを付けながら花ごよみの真似事を始めたものの、できあがったリストは完成とはほど遠いお粗末なものでした。植物の勉強の必要性を痛感し、平塚市博物館に通い始めたのですが、そこで神奈川県植物誌調査会湘南ブロックの初期のメンバー、山口育子、三輪徳子、齋木操、斉藤溢子、米山智恵子、内藤美知子の 6 氏と出会うことができました。『神奈川県植物誌 1988』の発刊間もない頃で、お名前だけは存じ上げていた方々が岩戸山の植物調査や標本整理などの活動を精力的になさる姿に圧倒されるばかりでした。チームの中心はもちろん浜口先生。皆さん先生を尊敬し、先生もまた皆さんの個性を尊重し、それぞれを活かす方法をご存知でした。平塚市土屋で藪コギしたり泥にはまりながら花ごよみ調査をしたこともよい思い出です。

『神奈川県植物誌 1988』の巻末には「神奈川県植物季節」（浜口、1988）が掲載されています。1985 年、1986 年の 4 月初めに県内数百地点で、調査対象種を設けて開花状況を記録した結果は、「神奈川の春は三浦半島南部に始まり、海岸部から内陸部へ、さらに山地部へと進んでいく。しかし、その進行は隊列を組んだ軍

隊が整然と進むようにはなく、同時多発的なゲリラがやがて全体を制圧するように進む」という、県民が漠然と感じていたことを目に見える形で表した画期的なものでした。この報文は、本文でも述べられているように、「広範囲で同時期に各種の植物の開花状況を調査した日本では初めての試み」として大きな成果だったのです。

しかし、浜口先生はその問題点も指摘され、さらなる調査の必要性を説いていらっしゃいます。そして2002年から(予備調査を含め)3年間にわたって大規模な花ごよみ調査が実施されることとなります。調査会の総会で先生が「全県での花ごよみ調査」について提案なさるのを、「面白そうだが本当に実現できるのかな」と半信半疑で聞いていたことを思い出します。しかし始めてみると参加を希望される会員は多く(126名)、調査地は100ヶ所を超えました。参加者の情熱の結晶である調査結果をパソコンに入力すると、データは3万行(3万種の開花記録)にのびりました。この膨大なデータがあったからこそ「どのような種が、いつ開花しているのか」に加えて、「どのような環境で、どのくらい開花しているのか」まで解析することができたのです。「最も多くの調査地で観察されたのはハルジオンだが、開花点数が高かった(=広範囲で長期間開花した)のはハキダメギク」、「近縁種どうしの開花ピークのずれ」、「受粉型による開花の違い」など、情報を数値化することで明らかにできたことが多くありました(神奈川県植物誌調査会, 2008)。

調査結果のまとめには先生と5名の会員がたったのですが、それぞれの意見が交錯し、熱気を帯びるあまり混乱気味になるメンバーを、先生は「ちょっと困ったな」という顔をされながらも軌道修正し、的確な判断で導いてくださいました。

私たちには良い勉強でしたが、先生にはかなりストレスだったのではと申し訳ない気持ちになっています。

このような指導者・教育者として「要」の役割の他にも、自らを自然探偵と名乗るほどのミステリー好き、温かみのあるイラストを描くアーティスト、自転車愛好家・・・などなど、いろいろな面を持っていらっしゃいました。研究者として秀でていらっしゃったことも周知のことで、花ごよみについてもすばらしい調査をされています。大山のケーブルカー追分駅から下社、見晴台を經由して山頂に至り、蓑毛越えを経て蓑毛に下るコースを月3回歩いて、標高による開花時期のずれを詳細に分析するという超人的なものです(浜口, 2001)。植物の開花を記録する一見単純な作業でも、工夫と努力次第では大きな結果を生み出す可能性があることを自ら実証されたといえるでしょう。

現在も神奈川県各地で花ごよみの観察は継続され、先生の播かれたタネは確実に芽吹いています。その芽を開花させ、成熟させ、次の世代に引き継いでいくことが残された者の役目なのかもしれません。浜口先生、ありがとうございました。どうか天国で見守っててください。

引用文献

- 平塚市博物館, 1984. ガイドブック5 高麗山・湘南平一やさしい自然観察一. 平塚市博物館, 平塚.
- 浜口哲一, 1988. 神奈川県植物季節. 神奈川県植物誌 1988, pp.1332-1343.
- 浜口哲一, 2001. 大山における開花季節調査. 神奈川県自然誌資料, (22): 5-11.
- 神奈川県植物誌調査会編, 2008. 神奈川県の花ごよみー2003・2004年度の調査報告ー. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.

2010年度総会の報告

(事務局)

2010年4月11日(日)、生命の星・地球博物館講義室において、2010年度の役員会・総会が開催され、報告・議事とも、一部修正はありましたが、了承されました。以下の報告は当日の修正などを反映したものです。紙面の都合で、一部省略しました。なお、総会終了後には、大西亘氏の「最近の植物分類学のしくみ ～形

態とDNAのコラボレーション～」と田中徳久氏の「熱海市岩戸山の植物相と伊豆半島産植物のデータベース」と題した講演、話題提供をいただきました。

● 2009年度事業報告

● 2009 年度 決算報告・監査報告

1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	10
11	11
12	12
13	13
14	14
15	15
16	16
17	17
18	18
19	19
20	20
21	21
22	22
23	23
24	24
25	25
26	26
27	27
28	28
29	29
30	30
31	31
32	32
33	33
34	34
35	35
36	36
37	37
38	38
39	39
40	40
41	41
42	42
43	43
44	44
45	45
46	46
47	47
48	48
49	49
50	50
51	51
52	52
53	53
54	54
55	55
56	56
57	57
58	58
59	59
60	60
61	61
62	62
63	63
64	64
65	65
66	66
67	67
68	68
69	69
70	70
71	71
72	72
73	73
74	74
75	75
76	76
77	77
78	78
79	79
80	80
81	81
82	82
83	83
84	84
85	85
86	86
87	87
88	88
89	89
90	90
91	91
92	92
93	93
94	94
95	95
96	96
97	97
98	98
99	99
100	100

101	101
102	102
103	103
104	104
105	105
106	106
107	107
108	108
109	109
110	110
111	111
112	112
113	113
114	114
115	115
116	116
117	117
118	118
119	119
120	120
121	121
122	122
123	123
124	124
125	125
126	126
127	127
128	128
129	129
130	130
131	131
132	132
133	133
134	134
135	135
136	136
137	137
138	138
139	139
140	140
141	141
142	142
143	143
144	144
145	145
146	146
147	147
148	148
149	149
150	150
151	151
152	152
153	153
154	154
155	155
156	156
157	157
158	158
159	159
160	160
161	161
162	162
163	163
164	164
165	165
166	166
167	167
168	168
169	169
170	170
171	171
172	172
173	173
174	174
175	175
176	176
177	177
178	178
179	179
180	180
181	181
182	182
183	183
184	184
185	185
186	186
187	187
188	188
189	189
190	190
191	191
192	192
193	193
194	194
195	195
196	196
197	197
198	198
199	199
200	200

● 2010 年度 予算

201	201
202	202
203	203
204	204
205	205
206	206
207	207
208	208
209	209
210	210
211	211
212	212
213	213
214	214
215	215
216	216
217	217
218	218
219	219
220	220
221	221
222	222
223	223
224	224
225	225
226	226
227	227
228	228
229	229
230	230
231	231
232	232
233	233
234	234
235	235
236	236
237	237
238	238
239	239
240	240
241	241
242	242
243	243
244	244
245	245
246	246
247	247
248	248
249	249
250	250
251	251
252	252
253	253
254	254
255	255
256	256
257	257
258	258
259	259
260	260
261	261
262	262
263	263
264	264
265	265
266	266
267	267
268	268
269	269
270	270
271	271
272	272
273	273
274	274
275	275
276	276
277	277
278	278
279	279
280	280
281	281
282	282
283	283
284	284
285	285
286	286
287	287
288	288
289	289
290	290
291	291
292	292
293	293
294	294
295	295
296	296
297	297
298	298
299	299
300	300

●各ブロックの活動報告

301	301
302	302
303	303
304	304
305	305
306	306
307	307
308	308
309	309
310	310
311	311
312	312
313	313
314	314
315	315
316	316
317	317
318	318
319	319
320	320
321	321
322	322
323	323
324	324
325	325
326	326
327	327
328	328
329	329
330	330
331	331
332	332
333	333
334	334
335	335
336	336
337	337
338	338
339	339
340	340
341	341
342	342
343	343
344	344
345	345
346	346
347	347
348	348
349	349
350	350

● 2010 年度 運営体制

351	351
352	352
353	353
354	354
355	355
356	356
357	357
358	358
359	359
360	360
361	361
362	362
363	363
364	364
365	365
366	366
367	367
368	368
369	369
370	370
371	371
372	372
373	373
374	374
375	375
376	376
377	377
378	378
379	379
380	380
381	381
382	382
383	383
384	384
385	385
386	386
387	387
388	388
389	389
390	390
391	391
392	392
393	393
394	394
395	395
396	396
397	397
398	398
399	399
400	400

「次の植物誌に向けて」打ち合わせ 会報告

(事務局)

表記の打ち合わせ会が、2010年6月22日(火)
13:30～16:30、生命の星・地球博物館講義
室で開催され、以下のような今後の方針が確認
されました。

- ①『神植誌01』の完売に向け(5～6年後)、
改良を加えた『新神植誌』刊行を目指す。会
員から改良すべき点、より良い植物誌とするた
めの課題を募り、実現に向けて検討する。
- ②全調査メッシュでの全分布種採集を目指した
調査は困難と思われるので、調査の空白地あ
るいは近年の未調査地域を抽出し、全種調査
が必要であれば、地域を限って行う。
- ③レッドデータ植物調査のようなチェックリストによ
る分布情報の収集方法について検討する。
- ④『新植物誌』調査に向け、担当メッシュを募る。
- ⑤上記調査に向け、各標本庫のデータを集約し、
仮にチェックリストを作成し、検証する。

● 2010年度事業計画

事務局より

No.69の正誤

838頁右段21～22行目

「小脈の分岐の有無は明快な区別点にならずな
区別点にはならず、」の、「区別点にならずな」
を削除ください。著者の久江信雄氏にはご迷惑
をお掛けしました。申し訳ありません。

浜口さんを送る会

11月27(土)午後、横浜にて浜口さんの足跡
をたどり、思いを継承していくためのシンポジウム
が企画されています。詳細は次号にてお知らせ
いたします。

ご協力に感謝し、深く哀悼の意を表したいと思ひ
ます。代表の城川四郎氏と花ごよみ調査でご尽
力いただいた佐藤恭子氏に追悼文の執筆をお願い
しました。ありがとうございます。

また、今号には、高知県立牧野植物園の田中
伸幸氏に「横浜市内でのナヨテンマの記録」を
ご寄稿いただきました。感謝いたします。

本年4月より、生命の星・地球博物館に、木
場英久氏の後任学芸員として、大西 亘氏が着
任しました。総会の報告にあるように事務局の一
翼を担っていきますので、よろしく願ひします。

今号は公約通り“総会后すぐに”発行出来ま
した。3ヶ月ほど経っていますが…。次号は、調
子に乗り、秋の発行を目指したいと思ひています
(出来ればカラーで…)。会員の皆さんの原稿と
カラー画像をお待ちしております。(田中徳久)

編集後記

2010年5月3日、会の設立当初より、会の運
営、植物誌の刊行の中心として、たいへんお世
話になった浜口哲一氏をご逝去されました。ここ
数年、役員会・総会の折に、「次の植物誌への
ロードマップを!!」とご意見を頂いていましたが、
事務局の力不足で実現できなかったものが、よう
やく打ち合わせの日程を決め、いよいよと思ひて
いた矢先のことでした。これまでの会へのご指導・

神奈川県植物誌調査会

〒250-0031 小田原市入生田499

神奈川県立生命の星・地球博物館内

TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@nh.kanagawa-museum.jp

郵便振替 00230-5-10195

加入者名 神奈川県植物誌調査会

年会費 2,000円